風呂敷で過剰包装をなくせるか

動機・目的

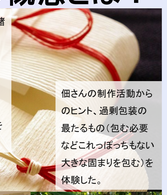
英語の授業で「外国人に伝えたい日本のマニアックな魅力」というテーマを調査し、日本人は良くも悪くも包む文化を持っていることを知る。風呂敷という日本の魅力を広めると共に、野菜の過剰包装という課題に取り組みたいと思った。

SDGsの授業で1年間、食品ロスについての探究を行ったことで、食品関連の課題の深刻さについて痛感した。その中でも、日本人の習性からなる野菜等の過剰包装に焦点を当てて考えや解決策を深めたいと考えたから。

SDGsな社会を目指して風呂敷を活用することで過剰包装をなくしたい！
未来ゼミを通して様々な情報や経験を得たい！

ゼミ活動1 「包む」の概念とは？

第１回のゼミ活動は美術作家の佃七緒さんをゲストスピーカーに迎え、メンターのさんとともに
「包む魅力って何？」
「風呂敷の魅力って何？」
「過剰包装ってどこからが過剰？」
という問いに対して、自分なりに言葉を紡いで考えていることの共有した。



佃さんの制作活動からのヒント、過剰包装の最たるもの（包む必要などこれっぽっちもない大きな固まりを包む）を体験した。

「包む魅力って何？」

楠山

書道の作品で汚れないように包んだ作品と、忘れて包んでいない作品を比べると、包んでいた作品の方が上手に見えた。
→包んだ前と後で気持ちでモノの捉え方が変化するのが魅力的！

土井

オブラートに包む、謎に包まれる、、、。包むという言葉は日本語特融。外国の人々は包装をビリビリにするけど、日本人は丁寧に包みをとる。
→日本人は「包む」ことに敬意を払っているのが魅力！

「風呂敷の魅力って何？」

土井

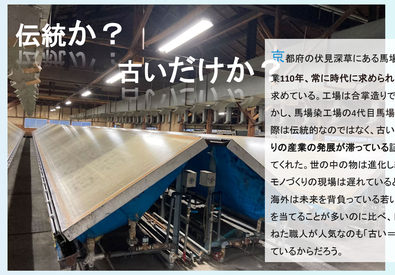
風呂敷はたった一枚で、さまざまな使用方法がある。
普通のカバンなら固定されたスペースに入れるだけ。
→風呂敷は臨機応変に変形して自由自在！

楠山

昔から風呂敷の形が変わっていない点が面白い！
風呂敷の形がシンプルイズベストを体現している。
でも、包み方は進化している可能性がある
→伝統と人間の成長を感じられる

「過剰包装ってどこからが過剰？」

ゼミ活動2 馬場染工場へ見学



京都府の伏見深草にある馬場染工場は創業110年、常に時代に求められる染色を追い求めている。工場は合掌造りで、伝統的だ。しかし、馬場染工場の4代目馬場憲生さんは「実際は伝統的なのではなく、古いだけ。モノづくりの産業の発展が滞っている証拠だ」と教えてくれた。世の中の物は進化し続けているが、モノづくりの現場は遅れているというのである。海外は未来を背負っている若い人たちに焦点を当てることが多いのに比べ、日本は年を重ねた職人が人気なのも「古い＝伝統」だと考えているからだろう。

伊勢型紙を用いて行われる「染め」の作業はすべて手作業。もともとは三重県鈴鹿市発祥の伊勢型はシルクスクリーン（孔版画）の技法の一種であり、インクが通過する穴とインクが通過しないところを作ることで版画の版を製版し、印刷を行う。

染色の原材料は、世界共通。中国で作られた染料が全世界に届けられる。原色のまま使うものもあるが、基本色を混ぜることが多い。黒は何色とも混ぜてはならないという鉄則があるらしい。色の組み合わせを書いたノートには緻密に計算された証が残っていた。

風呂敷工場の課題

- 風呂敷工場はロスが出る
  ※ものづくり全般に言える
- 馬場染工場は全体の5%がB品（不良品）
→そのまま捨てられる

Q. なぜB品を売らずに、そのまま捨てるのか？
A. B品を売るとなると、値引きをすることになるので、定価で売るA品が売れなくなるから
→B品は売らずに活用◎

風呂敷と過剰包装の関係性

- 過剰包装をなくすために風呂敷が効果的なのは「捨てられる確率がとても低い点」だとおっしゃっていた
- 靴を風呂敷に包んで売ったことがあった
→靴を包む風呂敷として売る ×
→靴屋さんに風呂敷を買ってもらいサービスの一環として導入してもらう◎
→風呂敷は伝統とSDGsを両立した稀少な存在

今、風呂敷を作っている工場は3つぐらい。
昔は同業者で競い合うよりも、一つの工場の方が良いという考えだったが、いざ同業者が少なくなると、その作っているものが忘れられているという事実に気づく。

自分から風呂敷の魅力を発信し、知名度を上げていかなければならないのが面倒

風呂敷をもっとカジュアルに手軽に使ってもらいたい。風呂敷はインナーバッグ！

ゼミ活動3 斗々屋 京都本店へ見

京都府の上京区にある2021年にオープンした斗々屋 京都本店は、日本初のゼロウェイストなスーパーマーケット。持続可能な社会を実現するために、食品や生活用品を個包装せずに販売する「量り売り」を実施している。環境に配慮したライフスタイルを広く社会に提案していくにあたり容器包装ゴミを減らすことが必要不可欠だとおっしゃっている。

乾物や液体はもちろん、それに加えて野菜、果物、お豆腐、納豆、お肉、お惣菜などの生鮮商品も幅広く販売している。

お店の奥には、イートインスペースが併設されいる。デリとして店頭で鮮度の落ちる直前の食材を販売しており、ここで食べることも可能。飲み物やバフェ、ランチの提供まで行っている。

ゼミ活動4 斗々屋 京都本店にてワークショップ

立命館小学校
立命館宇治高校
未来ゼミ
斗々屋のInstagram
等を通して宣伝！

プラスチックごみに限らず、ごみ全般をできるだけ出さないような生活スタイルが増えていることあ知っているだろうか。大量生産、大量消費、大量廃棄の現代社会に疑問を持った人たちの活動により、「ゼロウェイスト」という概念が世界中に広まっている

石油資源の浪費や焼却処理によるCO2の排出といった問題だけではなく、大量のプラスチックごみが海を漂い、海の環境に深刻な影響を及ぼすのに加え、人体への影響すら懸念される事態となっている。

斗々屋では、スタートアップ、ノウハウの共有、販売促進のフォロー、初期費用を抑えるシステムをご案内。
また、知識を付けたい方のために「ゼロから始めるゼロ・ウェイストショップ開業講座」も行っている。

馬場染工場
BAMBA Dyeing Factory

「若い世代にもっとゼロウェイストを知ってもらい、行動に移してほしい！」
○
ワークショップの場所提供

「ただきれいな結び方を広めてほしいのではなく、簡単で便利に使えるインナーバッグのような身近なものであることを感じてほしい！」
○
捨てられてしまうB製品の風呂敷をいただいく

馬場染工場では、全体の約5%が欠品として廃棄されてしまうため、それを再利用することはSDGsにもつながる。ワークショップにおいて、実際に風呂敷に触れることで、便利さを実感してほしい。そして、風呂敷を使うことで、過剰包装を減らし、SDGsな社会を目指していきたい。

風呂敷を身近に感じてもらうために、難しくて綺麗な包み方を教えるワークショップではなく、来てくださった方にまずは風呂敷に触れていただき、実際にお弁当箱を自由に包んでいただいた。

ワークショップの工夫

馬場染工場でいただいた風呂敷を、包むものとしてだけではなく、テーブルクロスとしても活用！

馬場染工場のシール配布

過剰包装の説明や風呂敷とのつながりをまとめたポスターを設置！

ワークショップという初めての試みをするにあたり、不安や疑問が多くあった。しかし、実際に経験してみると、来てくださった方々から得るものは多く、楽しみながら充実した時間を過ごすことができた。

ワークショップを行う中で、新しい包装方法を教えていただいた。似てはいるものの、1人1人が独自の方法で包む姿を見て、風呂敷の可能性を感じることができた。

来て下さった約20名の方にアンケートを実施した。
子供や、風呂敷を日常的に用いていた方まで幅広い世代の方が参加してくださった。斗々屋さんにいらっしゃった方や、近くを通りかかった方、外国人までもが興味を持って参加してくださったことに意味があると感じた。

風呂敷ワークショップにご参加いただき、ありがとうございました！アンケートにご協力ください。

① 風呂敷に興味が出ましたか？ 1・2・3・4・5 高
② ワークショップを経て、風呂敷への関心が高まりましたか？ 低 1・2・3・4・5 高
③ 風呂敷に対して、どんな印象をもっていましたか？ （　　）
④ ワークショップを経て、風呂敷に対してどんな印象を持ちましたか？ （　　）
⑤ 過剰包装について、どれくらい危機感がありましたか？ ない・1・2・3・4・5 ある
⑥ ワークショップを経て、過剰包装への危機感が高まりましたか？ 低 1・2・3・4・5 高
⑦ もし、野菜がプラスチックの包装ではなく、風呂敷に包まれていたら、その商品を買いますか？ 買う・買わない
⑧ ⑦で買うと答えた方に質問です。どれくらいその商品が値段が高くなったら、買うのをやめますか？（商品の値段を100円とします。） （　　）円

「風呂敷を実際に使いたいと感じた！」
という声があり、ワークショップ実施に対する達成感を感じた。

- 風呂敷に対して元々「古風」「高い」などのイメージを持っている人が多かった。しかし、このワークショップを通して「便利」「面白い」などと前向きな考えに変化した人が多く、ワークショップの成果が感じられた。
- 特に若い世代は、風呂敷に馴染みがなかった人が多かったが、実際に使用してみることで関心が高まった、と大半が回答してくださった。

結論

風呂敷で過剰包装をなくせるかわからない

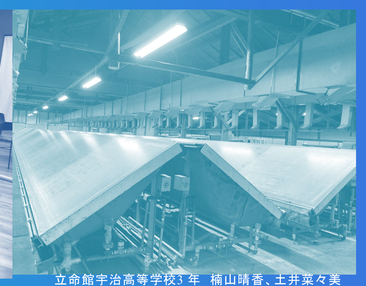
過剰包装をなくすような風呂敷を開発してみたい！！

今後の方針

起業プランを考案する

- 風呂敷工場で捨てられるB品（新品だけど捨てられるもったいないもの）を活用する
- スーパーマーケットで使用されている野菜のビニール包装を、風呂敷に変える
- 風呂敷で包むからこそのサービス
  - 風呂敷で包むと野菜の鮮度が見えない
  - →規格外野菜を風呂敷で包んでそのまま売る
  - 風呂敷はどのサイズにも対応できる
  - →様々な野菜を包める

第二期のみらいゼミに参加する



立命館宇治高等学校3年　楠山晴香、土井菜々美